

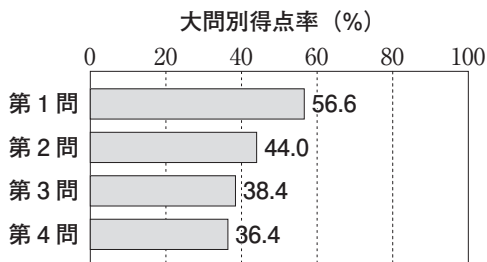
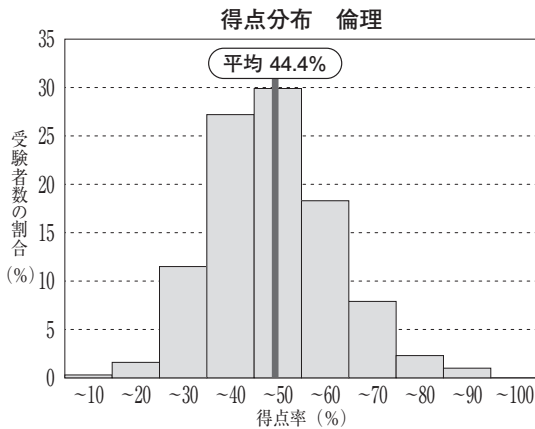
倫 理

夏休みは倫理の学習を進める大きなチャンスである。

I. 全体講評

「第3回6月センター試験本番レベル模試 倫理」の平均点は44.4点で、前回4月の模試の結果から大きな変化はなかった。前回の結果と大問別に比べても、いずれの大問も数%上下している程度であった。このことは、受験者の学習が前回4月の模試の時点からそれほど進んでいないことを意味している。ただし、この時期に倫理の学習を完成させている受験者はそれほど多くないであろうから、この平均点はやむを得ないとも言える。そこで、まもなく始まる夏休みの期間を利用して、一通り倫理の学習を終え、次回以降は自信をもって模試に臨めるようになってほしい。

現状では、受験者は、模試の結果に一喜一憂する必要はない。自分が間違えた問題を直視し、率直に反省し、それを足がかりに、夏休みに何をすべきかについての的確に把握することが大切である。



II. 大問別分析

第1問 青年期・現代社会分野

西洋近現代思想の知識をつければ、第1問の得点率はさらに上昇する。

第1問の得点率は56.6%。現在の日本の状況に多少関心があれば答えられる問3 [3]や、資料文読解の問4 [4]、グラフ読み取りの問5 [5]のような、知識をそれほど必要としない問題の正答率は高かったが、西洋近現代思想の知識を問う問2 [2]や問9 [9]の正答率が低く、この分野の学習が遅れていることが分かる。第1問でも西洋近代思想分野の問題が出題されることがある。いずれも平易な選択肢であるから、学習を進めた後に、もう一度解いてもらいたい。また、問10 [10]の趣旨読解問題は8択になっているが、これはここ数年では2016年度にのみ出題された形式である。通常の4択ではなく、このような出題のされ方もあり得るが、文章の趣意を的確に把握し、落ち着いて選択肢の文章の正誤を判断することで、混乱に陥ることを避けたい。

第2問 源流思想分野

源流思想分野の知識を固めることが、日本思想や西洋近現代思想の理解の助けになる。

第2問の得点率は44.0%。全体的に正答率は低めであった。今までに少しずつ受験者が蓄えてきた知識を基に各選択肢の正誤判断をした様子がかがえる。しかし、得点率がこの時期で40%台であるということは、これから学習を進めていけばかなりの上昇を見込むことができる。源流思想分野は日本思想や西洋近現代思想につながる大切な分野であるので、夏の間学習を積み重ねよう。また、問4 [14]や問9 [19]のような趣旨読解問題の正答率が低めとなっている。いずれの問いもそれほど難しくはないので、国語(現代文)の学習にしっかり取り組んだ後に、もう一度解き直してほしい。

第3問 日本思想分野

表を作るなどして、鎌倉仏教の特色を把握せよ。

第3問の得点率は38.4%。日本の戦後の思想家を扱った問8 [27]の正答率が約20%であり、この大問の得点率を大きく引き下げた。この正答率からは、多くの受験者が勘で選択したことが推測できる。近年の難化したセンター試験倫理では、日本の戦後思想も十分出題される可能性がある。高得点を得るためには見落としとしてはならない事項である。しかし、このことよりも、正答率が10%に届かなかった問3 [22]の方が問題である。この問は鎌倉仏教に関する基礎的なものであるが、空欄aですでに60%以上の受験者が誤りを選んでいいる。選択肢は8つあるが、教科書では太字で扱われる語句ばかりであり、このような問題で正答を選択できないようでは、これから先が不安でならない。鎌倉仏教の僧たちの思想はみな特色がはっきりしているので、明確に区別して把握すること。

第4問 西洋近現代思想分野

まずは学習にとりかかってほしい。

第4問の得点率は36.4%。この分野の学習がいかに進んでいないかがよく分かる結果となった。そのうち、経験論の思想家に関する問3 [31]は正答率が10%程度しかなく、この大問で最も低かった。この問題で出題された思想家は誰も知らないという受験者が多いかもしれないが、山川出版社の用語集によれば、ロック、バークリー、ヒュームについて、すべての教科書に記載がある。したがって、明確な出題対象である。教科書の1ページ、一文たりとも見落としとしてはいけない。また、正答率が20%台であった問2 [30]はデカルトについての出題であるが、デカルトは問題文中に「近代哲学の祖」とある通り、哲学史上の最重要人物の一人である。そのため、多くの教科書でもデカルトについての記述が多くなっている。デカルトについての説明を読み、哲学とはどういうものなのかを少しでも知ってほしい。

Ⅲ. 学習アドバイス**◆各分野の大枠をつかむ。**

人名や用語を頭の中で繰り返すなどしてただ覚え

ようとしても、多くの人は覚えることはできないだろう。まずは、各分野の大きな流れ、大枠をつかむことである。例えば、源流思想分野の古代ギリシア思想ならば、神話→自然哲学者→ソフィスト→ソクラテス→プラトン→アリストテレス→ヘレニズムの思想の順に進めていくのである。そして、夏休みの間に教科書・参考書を通読し、用語集を何度も開き、人名や用語の知識を確実にしていこう。

◆8択でも慌てない。

倫理では8択の問題があり、どれを選べばよいのかと迷わされるかもしれない。しかし、8択であっても、3つの文の正誤判定ならば、一つ一つの選択肢の正誤判定をすればよいのであるから、行うべき作業は4択の問題とそれほど変わらない。穴埋めであれば、多くの問題では一つの空欄に入る候補は2つしかない(2択である)。落ち着いて一つ一つ対処していくことが大切である。

◆次回の模試に向けて。

今回の「第4回8月センター試験本番レベル模試」は8月の終わりに実施されるので、夏休みの学習の成果を測るよい機会である。そこで、この模試の前に、教科書や参考書を通読を終えるなど、学習をある程度進めた段階で、すでに手元にストックされている3回分の模試の問題を解き直してほしい。手応えが格段に違っていることを実感でき、自信をもって8月の模試に臨めるだろう。本番と同一レベル・同一内容・同一形式の問題と、要点を的確に押さえた解答解説冊子は、他にない教材である。存分に使いこなしてほしい。